



生徒指導部から（１年生へ）

＝未来の花を咲かせるために＝

2026年9月11日

アメリカ同時多発テロ。それは、2001年9月11日に起きました。イスラム過激派テロ組織アルカイダによって、4機の旅客機がハイジャックされ、そのうち2機がNYのワールドトレードセンタービル、1機がペンタゴンへ激突し、2,977人が犠牲になったテロ攻撃です。アメリカの外交政策、特に、イスラエル支援などの中東へのアメリカの介入に対して、アルカイダの反感を招いたことが原因とされています。ロシアのウクライナ侵攻やアメリカのイラン攻撃にしても、自分が正しいと思っていること、自分の「正義」が必ずしも他人に通じるわけではないのに、それを押し通そうとすることで「争い」が起きるという象徴なのかも知れません。

『人はそれぞれ「正義」があって、争い合うのは仕方ないかもしれない

だけど僕の「正義」がきっと彼を傷つけていたんだね』とSEKAI NO OWARIが歌っているように、自分の考えに基づく言葉や行いが他人を傷つけることになっていないかを思い巡らされる心をもっていれば、争いは起きないのかもしれないですね。

今週は、いじめ問題を考える週間。つまり、人への優しさ、思いやりを考える週間です。

いちゃもん・・・弱い者いじめがはびこる社会

まだまだ残暑、暑いのは当たり前のことです。

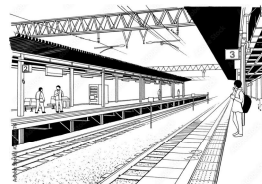
「あつっ～」なんて、口に出してもそんな状況は変わりません。

自然に口をついて出てくるだけなら、まだましです。

最近では、自分が被った不利益を他人のせいにして、

自分の気持ちを昇華させようとする残念な人も増えました。

「ラッシュ時に駅のホームで、もともと置いてあるベンチにぶつかって、ケガをしたのは、そこにベンチを置いた鉄道会社が悪いと訴える。」



「殺人罪で逮捕された容疑者が、自分がニュース映像に映されたのは、捜査員がカメラから隠すように立たなかったからだと訴える。」

こんな馬鹿げた事例が年々増えているそうです。

そんな今を称して「いちゃもん化社会」と呼ぶ学者もいます。

そもそも「いちゃもん」をつける人の心理は、自己肯定感の低さや、他人への嫉妬、あるいは、単にストレスの発散などが考えられます。醜い心の現れです。

そして、「いちゃもん化」で、私たちの仕事に変化が現れていると言われています。



仕事(労働)の種類は、「肉体労働」、「頭脳労働」、そして「感情労働」に分けられ、仕事や場面によって、この三つが混ざり合っていますが、この三つの労働のうち、年々、「感情労働」の割合が増えていると言われています。

「感情労働」とは、旅客機の客室乗務員(CA)が典型的と言われ、今では、サービス業界に限らず、多くの業界に広まっているものです。

理不尽なことを言われても、その理不尽さをとがめることなく、自分の感情を表に出さず(我慢して)、上手く処理していく能力が求められる職業で見られるものです。

身勝手がはびこり、多くの人が「堪忍袋」の酷使を強いられている世の中で、自分の仕事で、客に理不尽を言われる立場にいる人が、客としては、理不尽を言う。そして、またその客も。

まさに世の中、「感情労働」だらけ、理不尽の連鎖です。弱い立場、我慢しななければならない立場の者を自分のストレスのはけ口にするやるせない「堂堂巡り」が透けて見えてきます。ネットでの誹謗中傷も後を絶ちません。



これはそう、弱い者いじめの様態とそっくりです。誰かがどこかで我慢しているのです。

いったん口に出した言葉は、消すことはできません。SNSなら、なおさらです。

自分の言動や態度が相手にどんな思いをさせるか、考えてから行動すべきです。

「相手を思いやる心」を持って、「考動」すれば、住みやすい世の中になるはずです。

自分の周り、少なくともクラス、学校では、「いちゃもん化」をなくしましょう。

場をわきまえ、相手を思いやり、礼を尽くす。

そんな当たり前のことができれば、みんなが楽しく勉強や部活動に打ち込めるはずです。鹿児島工業高校が、「いじめ」なんかない、過ごしやすい場所になるはずです。